

PID を繰り返していた *Edwardsiella tarda* 感染症に抗菌薬とプロバイオティクスにて加療し、IVF 妊娠成立した 1 症例

浅井（古元）淑子、森下みどり、寺脇奈緒子、小宮慎之介、姫野隆雄、井上朋子、森本義晴
HORAC グランフロント大阪クリニック

38 歳、0 経妊、既往歴：うつ病（内服コントロール中）、腹腔鏡下筋腫摘出＋両側卵巣内膜症性嚢胞摘出（31 歳）、薬剤性高 PRL 血症、喘息。当院受診前の月経時に PID 発症し入院歴あり。AMH：0.87ng/ml、IVF 治療開始となる。採卵実施し、新鮮胚移植実施。妊娠不成立でその後の月経で PID 発症、入院し保存的治療で軽快した。以後コロナ感染拡大のため受診中断。その間も月経を契機に PID 発症し入院歴あり。根治のために子宮摘出を勧められた。胚移植のため再受診。膣培養採取。膣培養より *Edwardsiella tarda* ほか検出。原因となる食品摂取・川遊び・ペットの飼育などなし。抗生剤・プロバイオティクス治療継続しながら胚移植を計画した。胚移植を実施し 4 日後に下腹部の激痛あり。炎症反応の上昇より PID の再燃を疑い高次施設紹介も CRP 軽度陽性のみにて抗生剤投与で自宅待機となる。その後症状の増悪なく、妊娠判定陽性の結果となった。現在妊娠継続中である。